

令和5年度 入学者選抜試験問題

国 語

〔100点〕
〔50分〕

実施日：令和4年12月1日（木）

※ 下記の〈注意事項〉をよく読み、監督者の指示があるまで開かないこと。

〈注意事項〉

— 開始前 —

1. 試験時間は10：20～11：10の50分であり、途中退室は認めない。
2. 監督者の〈開始〉の指示があるまで、この問題冊子の中を開かないこと。
3. 解答用紙には、解答欄のほかに、受験番号・氏名の記入欄があるので、下記を参照し記入・マークすること。
 - 受験番号欄 上段に受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。
 - 氏名欄 氏名・フリガナを記入すること。
4. 解答用紙に汚れがある場合には、挙手で監督者に知らせること。

— 開始後 —

1. この問題冊子は23ページである。確認してページの落丁・乱丁・印刷不鮮明等がある場合は、挙手で監督者に知らせること。
2. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄へのマークによって行うこと。
例えば

| |
|----|
| 40 |
|----|

 と表示のある問いに対して ③ と解答する場合は、次の(例)のように解答番号40の解答欄の③にマークする。

(例)

| 解答 番号 | 解 答 欄 | | | | |
|----------|-------|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 40 | ① | ② | ● | ④ | ⑤ |

3. マークはHBの鉛筆で行い、所定欄以外にはマークしたり、記入したりしないこと。
4. 解答用紙は汚したり折り曲げたりしないように特に注意すること。
5. 訂正は、消しゴムであとが残らないように完全に消し、かすが残らないようにすること。
6. 質問等がある場合は、挙手で監督者に知らせること。ただし、問題に関する質問は受け付けない。

(問題は次のページから始まる)

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

問1 本文中の（ a ）～（ e ）に入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、それぞれ一度しか使えない。

解答番号は（ a ） 、（ b ） 、（ c ） 、（ d ） 、（ e ）

- ① しかし ② やがて ③ そして ④ しかも ⑤ ただ

問2 本文中の（ I ）～（ III ）に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は（ I ） 、（ II ） 、（ III ）

- | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| I | ① 構造化 | ② 複雑化 | ③ 形式化 | ④ 合理化 | ⑤ 最大化 |
| II | ① 適応性 | ② 適材性 | ③ 積極性 | ④ 突発性 | ⑤ 循環性 |
| III | ① 生理的 | ② 遺伝的 | ③ 形態的 | ④ 要素的 | ⑤ 還元的 |

問3 次の一文は、本文の《1》～《5》のいずれかから抜き出したものである。文が入る箇所として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 9

こうした延々と続く食物連鎖が、この地球上で生まれ、今日までくり返されているのです。

- ① 《1》 ② 《2》 ③ 《3》 ④ 《4》 ⑤ 《5》

問4 傍線部A「これは画期的なことでした」の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 10

- ① メタン発酵や硫酸酸化などの化学反応により、原始的なエネルギー交換を行う原始生命が生まれたこと。
② マントル対流の変化により、DNAを破壊する強い太陽光エネルギーがさえぎられるようになったこと。
③ 二七億年前ごろに、光合成により酸化反応から強いエネルギーを得ることができるようになったこと。
④ 深海の熱水噴出口にシアノバクテリアが登場し、大気と海中の酸素量が増加しはじめたこと。
⑤ 酸素を利用して生命の大型化が進み、雌雄の別をもった酸素呼吸型の真核細胞が登場したこと。

問5 傍線部B「ある意味では、彼らは熱や太陽光や酸素を、エネルギーとして食べて生きていたことになりす」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は

11

- ① 単純な原始生命であれ、シアノバクテリアであれ、真核生命であれ、生きていく上では何らかのエネルギーを必要とせざるを得ない点は人間と同様であり、これらの原始生命やシアノバクテリアや真核生命が人間と同様であることを「食べる」「生きる」という言葉で表現している。
- ② 現在、一般的に考えられる「食べる」や「生きる」とは異なるが、単純な原始生命であれ、シアノバクテリアであれ、真核生命であれ、熱水や太陽光、酸素等からエネルギーを得ることを、人間になぞらえて「食べる」、生命としての活動は「生きる」と表現している。
- ③ 真核生命であっても、シアノバクテリアであっても、さらには四〇億年前くらいに登場した単純な原始生命であっても、いずれもわれわれ人間が現在何かを食べて生きていくということの基盤を形成しているということを、「食べる」「生きる」という言葉を用いて表現している。
- ④ 単純な原始生命は熱水から、シアノバクテリアは太陽光から、真核生命は酸素から、それぞれが厳しい環境の中で、自分に最も合った形のエネルギーを取捨選択してきたことを「食べる」と、人間が思考することく進化してきたことを「生きる」と言う言葉で表現している。
- ⑤ 生命は進化の過程で単純な原始生命から、シアノバクテリア、真核生命、さらには多細胞生物へと形態が変化を遂げたが、生命としての活動には、熱や太陽光、酸素はいずれも必要であることを、「食べる」「生きる」という言葉を用いて表現している。

問6 傍線部C「本格的な動物の登場は、地球上に食物連鎖というシステムを生み出しました」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 12

- ① 植物という有機物を食べて生きる動物が誕生したことで、植物から動物という進化のつながりが明確になり、動物が学習能力を高めたことが更なる進化につながったということ。
- ② 有機物を合成する植物を草食動物が食べ、草食動物を肉食動物が食べるというつながりが形成され、その一方で、動物が植物の成長条件を整え、肥料を提供しているということ。
- ③ 哺乳類など、他の動物を捕食する本格的な動物は、大量絶滅後、約二億年前の三畳紀に哺乳類型爬虫類のキノドン類から、より進化した形で登場したということ。
- ④ 動物の急激な進化の時間は、四六億年におよぶ地球史全体からすれば、ほぼ一割強にしか過ぎないが、その中で植物と動物が相互に依存しあって存在し始めたということ。
- ⑤ 食物連鎖の頂点に立つ哺乳類は、爬虫類から進化してほぼ二億年前に生まれたが、卵生ではなく胎生という形で、より確実に世代交代をとげるシステムを獲得したということ。

問7 傍線部D「地球の全歴史を一年に見立てた、地球カレンダーという見方」とあるが、このたとえを用いた意図として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 13

- ① 宇宙の誕生から地球誕生、さらに現在までの全ての歴史がとても長いということを示すため。
- ② 人間という生命が誕生したのは、つい最近のことであるということを示すため。
- ③ 人間という生命の誕生が、ほぼ五〇〇万年前から四〇〇万年前であることを示すため。
- ④ 小さな子どもから大人まで、誰にとっても地球の全歴史をわかりやすく示すため。
- ⑤ ビッグバンによって宇宙が誕生し、そこから時間と空間の概念が始まったことを示すため。

問8 空欄 X に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 14

- ① 同等の価値をもって生きている
- ② 食物連鎖の中に組み込まれている
- ③ 人間へと進化する過程にいる
- ④ 地球の歴史の一部を生きている
- ⑤ 同一の祖先を共有している

問9 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 15

- ① 人間という生命は、地球という惑星が、とてつもなく長い年月をかけて産み出した存在であり、地球には、さらに宇宙誕生からの前史があるので、宇宙の誕生となるビッグバンから人間の歴史あるいは文化を食との関係で考えなくてはならない。
- ② 今から約四五・五億年ほど前に、銀河の片隅で星の爆発が起こり、太陽系星雲が生まれ、その塵が集まってできたいくつかの太陽の微惑星が成長して惑星となったうちの 하나가、地球だとされている。
- ③ 地球磁場が形成されることで地球内部のマントル対流に変化が起こり、DNAを破壊する強い太陽光エネルギーをさえぎってくれたことで、浅い海にシアノバクテリアが誕生した。
- ④ 一〇億年前に、かなり小さな動物が這い回った跡を確認できるような化石が発見され、八億年前ごろには、動き回りながら海底の堆積物のなかの有機物、つまり他の生物を食べて生活する栄養生物が登場した、と考えられている。
- ⑤ もともと海中に発生した酸素は、やがて大気中にも溶け出し、地球にオゾン層が形成され、五パーセントほどだったものが、約三〇パーセントにまで広がった。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

網掛け部分については、著作権上の理由により公開できません。

問1 カタカナで書かれた(ア)～(オ)の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は(ア) 16、(イ) 17、(ウ) 18、(エ) 19、(オ) 20

(ア) センク

- ① クフウを凝らす。
- ② カンヨウクを学ぶ。
- ③ 敵をクチクする。
- ④ クカク整理をする。
- ⑤ ロウクが絶えない。

(イ) キケツ

- ① ノウキに間に合う。
- ② 全員無事キカンできた。
- ③ キミヨウな話を聞く。
- ④ ジョウキを逸している。
- ⑤ キソクを遵守する。

(ウ)

ソウサ

- ① ソウサク活動に携わる。
- ② クウソウ的な話を作る。
- ③ 悩み事をソウダンする。
- ④ 商品をハツソウする。
- ⑤ 飛行機をソウジユウする。

(エ)

シテキ

- ① 患部をテキシユツする。
- ② 汽車がキテキを鳴らす。
- ③ テキセツに物事を判断する。
- ④ 彼にヒツテキする人はいない。
- ⑤ 予想がテキチユウする。

(オ)

チュウシユツ

- ① チュウシヤクを書き加える。
- ② ハクチュウに事件は起こった。
- ③ 試合が雨でチュウダンする。
- ④ チュウシヨウ的な絵画だ。
- ⑤ 実力がハクチュウする。

問2 傍線部A「動物と環境の相互依存関係」とあるが、この説明として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 21

- ① 動物の環境に対する埋没的な関係
- ② 動物の能力と環境との双対的な関係
- ③ 動物の心理的な活動が環境によって触発されるという関係
- ④ 動物の知覚は環境があつて初めて適切に機能するという関係
- ⑤ 動物は環境に依存しなければ生きていけないという関係

問3 空欄 X に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 22

- ① 動物との関係において規定される環境の特性なのである
- ② 環境に関わるものとは無関係に環境がもつ特性なのである
- ③ 動物が与えられた環境から独自に作り出した特性なのである
- ④ 環境が動物に提供する、動物に依存しない特性なのである
- ⑤ 動物が予想できない、環境の客観的な特性なのである

問4 傍線部B「その木が身を隠すのに小さすぎるのは、その大人がそう思い、そう意識したからではない」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 23

- ① 木が身を隠すには小さすぎるということは、その木自体がもつ客観的・普遍的な性質であって、それを見ている大人がどう考えるかには依存しないものであるから。
- ② 主観的な価値は、人間は対象から与えられた感覚的なデータを取り込んだ後、個々に意味を付与して存在するのではなく、木自体がその主観的な価値を所有しているから。
- ③ 大柄な大人にとって、木が身を隠すのに小さすぎるのは、その木自体がその大人との関係においてもつ特性であって、その大人がどう考えているかということではないから。
- ④ 木自体のアフォーダンスは観察者である大人が変わってもその性質は変わらないものであり、そうした木に対する観察者の注意や要求が単に変わるに過ぎないから。
- ⑤ 子どものときには身を隠すことができたという経験的事実により、木が身を隠すのに小さすぎるという木のアフォーダンスが変化したことを大人が理解できなかったから。

問5

空欄

Y

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 24

- ① 全ての動物に対して環境が提供している普遍的性質
- ② 個別的であることと普遍的であることとの背反的性質
- ③ 近代の二元論を克服した、現代にふさわしい性質
- ④ ある動物個体と環境との関係で測られる関係的性質
- ⑤ 個別的であることと客観的であることが補い合う相補的な性質

問6 傍線部C「ここで「直接知覚される」とはこういう意味である」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 25

- ① アフォーダンスは、感覚器官から直接的に脳に入力された感覚的データに対して、連合や推論などの中枢的な認知処理が施されて成立するということ。
- ② 知覚が成り立つには環境との接触だけでは不十分であり、何らかの処理が付け加えられ、内容が豊富化されることで直接知覚できたと言えるということ。
- ③ 外界に存在するのは後から認知的処理を必要とするような直接的な刺激ではなく、適合や推論などの中枢的な認知的処理自体が感覚データとして与えられるということ。
- ④ 心を生む脳自体も環境の中の一つであるので、脳は直接感覚データを受け取り、環境へとそのデータを埋め込むことで認知的な処理をしているということ。
- ⑤ 環境には、まとまりをもった知覚をそのまま説明できるようなマクロな構造化された刺激が存在しており、それを知覚しているのだということ。

問7 本文 の中のaとeの文を意味の通るように並べたものとして、最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 26

- ① c | a | e | b | d
- ② c | b | e | d | a
- ③ c | e | a | b | d
- ④ e | a | b | d | c
- ⑤ e | d | c | b | a

問8 空欄 Z に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 27

- ① 分散的
- ② 並列的
- ③ 直接的
- ④ 事後的
- ⑤ 現象的

問9 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は

| |
|----|
| 28 |
|----|

- ① ギブソンは生態学的な視点を知覚心理学の方法論として提唱しており、近代以降の哲学や心理学で主流となっていた認識論と存在論を踏まえ、両者を融合するような革新的な知覚論を提唱した。
- ② 従来 of 心理学や認識論では、デカルト以降の二元論的で実体的な存在論が自明視され、それゆえに価値の主観主義がうまれてきたが、ギブソンはこうした存在論を乗り越えることを目的としていた。
- ③ ギブソンの心理学でも郵便ポストやカクテルは実在し、それらについて語ることができるが、「実在する」とはギブソンの場合、出来事や過程とは独立に存在することを意味する。
- ④ ある遮蔽面はある動物にとっては他者から隠れることをアフォードするが、こうした環境のアフォードダンスは、実際に環境に備わっている客観的な性質であり、環境の物理的特性である。
- ⑤ アフォードダンスとは、環境から得られた感覚データに対して、個々の動物によって主観的・心理的な意味や価値が付け加わることで構成されるもので、価値ないし意味そのものと同義である。

(白紙ページ)

(白紙ページ)

